

## 台湾疎開石垣町民遭難事件「尖閣列島戦時遭難事件」 に係る遭難者の遺骨収集等の実現を求める要請決議

1944年（昭和19年）7月7日東條内閣は奄美大島、徳之島、沖縄本島、そして宮古、八重山の児童や女性、老人を本土や台湾に緊急疎開させるよう閣議決定し、鹿児島県、沖縄県の両県に指示した。それを受けて沖縄県では、役人や町内会長、区長など、地域の指導者の家族をはじめに疎開するよう指導した。

1945年（昭和20年）6月24日石垣島の住民に対し、24回目となる台湾疎開希望者の募集がなされた。台湾へ物資受け取りに行く独立混成第45旅団（旅団長：宮寄武之少将）独立歩兵第299大隊（球6462部隊）の長谷川小太郎少尉を隊長とする水軍隊が結成されて、第一千早丸（友福丸）、第五千早丸（一心丸）と軍呼称され、同年6月30日夕刻、約200名余が乗船し、石垣港から基隆港に向けて出航した。同年7月1日午前2時頃に西表島船浮に停泊した後、翌7月2日午後7時頃に船浮を出港し、同年7月3日午後2時頃台湾基隆港を目前にして、定期哨戒中のアメリカ軍に発見され、3回の爆弾投下と機銃掃射に遭い第一千早丸が炎上沈没した。第五千早丸もエンジンが破損し航行不能となり、翌7月4日午前9時半頃尖閣諸島の魚釣島に漂着した。漂着後2週間ほどで食料はなくなり、その後約30日頃から栄養不良のため衰弱し、次々と死亡者が出始め、亡くなられた方々は岩陰に葬られたと記録されている。また、南小島に食料確保に出かけた6人は消息不明となり取り残されてしまい、6人が魚釣島に戻った時には救助船が去った後で、内2人はその後病死し、残る4人は、11月に家族が雇った台湾漁船によって救助された。

遭難して約50日間、想像に絶する悲惨な状況にあったことを思うとき、戦後70年を来年に控え、一日でも早く遺骨を収集し、ご遺族の元へお届けすることにより、御霊の安らかなる鎮魂と、二度とこの様な悲劇がないように世界の恒久平和が強く望まれる。そのためにも、犠牲になられた方々の遺骨収集並びに現地での慰霊祭が実現しない限り、八重山地域の戦後処理は永遠に終わらない。

よって、本市議会は遭難者遺族も高齢化し当時の事を知り得る方々も数少なくなっている現状に鑑み、国の責任において下記事項が実現できるよう強く要請する。

### 記

1. 御遺族の要望が強い魚釣島に上陸し、遭難犠牲になられた方々の遺骨を早急に収集するため、上陸の許可及び慰霊祭の援助を行なうこと。
2. 尖閣諸島戦時遭難事件に関し、後世に史実を正確に残すため、聴き取り調査等による資料収集並びに記録集をまとめ、尖閣諸島戦時遭難者資料館及び尖閣諸島の歴史的史実を広く発信する資料館等を建設する慰藉事業を行うこと。

以上、決議する。

平成26年10月21日

石垣市議会

あて先

内閣総理大臣、内閣官房長官、外務大臣、国土交通大臣、厚生労働大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、沖縄県選出国會議員